

※2025年3月のRESAS新システムへの移行に伴い、一部のマップ・メニューが掲載内容と異なる場合があります。

学校区分	学年	SW-ingリサーチローカルアクト			徳島県立脇町高等学校
高等学校	1年				
教科名	科目名	単元名	授業時間目安	活用したRESASデータ（マップ名等を記入）	
総合的な探究の時間			30 時間	観光マップ、人口マップ、産業構造マップ、地域経済循環マップ、企業活動マップ、消費マップ	

目的やねらい、
背景や経緯

本校では、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の一環として、生徒が科学的思考力を身につけ、地域課題の解決に向けた探究活動を行うことを目指している。特に、地域社会の現状を客観的に捉え、データに基づいた意思決定を行う力を養うため、RESAS（地域経済分析システム）を活用することとした。背景には、地方の人口減少や産業衰退といった課題がある中で、生徒が地域の問題をよりリアルに理解し、自ら解決策を考える機会を提供したいという意図がある。

そして、RESASを活用する目的は、単なる情報収集ではなく、データを根拠として課題を分析し、仮説を立て、具体的な提案につなげる思考力を養うことにある。また、生成AI（ChatGPT）を併用することで、生徒が仮説を深め、フィードバックを受けながら思考を洗練させるプロセスを支援し、論理的に探究を進める力を高めることもねらいの一つである。

取組内容

概要

本取組では、RESASを活用した地域課題の発見・分析を中心に、データをもとにした探究活動を行った。生徒はまず、RESASの基本操作を学び、その後、人口動態、産業構造、観光データなどの各種指標を活用して地域の現状を分析し、課題を特定する。その過程で、「なぜこのような課題が生じているのか」という視点でデータを深掘りし、仮説を立てた。さらに、生成AIを活用し、仮説の修正や調査計画の具体化を行いながら、解決策を検討した。授業の流れとしては、まずRESASの使い方を学び、データの収集・分析を行った後、仮説を立て、生成AIを用いて仮説の精査や調査計画のブラッシュアップを行った。その後、発表を通じてフィードバックを受けることで、より具体的な政策提案へとつなげた。

授業の構成・カリキュラム等

授業の導入では、生徒に「あなたが住む地域にはどのような課題があると思いますか？」という問いを投げかけた。生徒は自分の考えをもとに、RESASを用いてデータを収集し、実際の数値と照らし合わせながら、自分の仮説の妥当性を検証した。その際、「この課題は本当に重要なのか？」「他のデータと比較すると、どのような新たな発見があるか？」といった問いを立て、思考を深めるアプローチを取った。

授業の流れとしては、4月から9月の準備期間にRESASの操作方法やデータリテラシーを学び、その際には地元美馬市の職員の協力もいただいた。9月以降は地域課題の発見・分析、仮説検証、解決策の立案という探究活動へと移行した。ここでは行政だけでなく、企業の目線も入れるため、いくつかの企業からも講演いただいた。そして、1月にクラス内発表、2月に校内発表を行い、他者のフィードバックを受けながら提案をブラッシュアップし、最終的な成果をまとめた。

活動の様子



成果
(発見・気づき)
及び課題

生徒はデータに基づいた課題分析の重要性を実感し、「感覚ではなく、数値を根拠に仮説を立てられるようになった」との声が多く聞かれた。具体的には、観光客数の減少ではなく日帰り観光の増加が課題であることなど、データから新たな発見を得る経験ができた。一方で、RESASのデータ量が膨大なため、「どの情報を選ぶべきか」「データと課題の関連性を判断するのが難しい」という課題が生じた。また、データ分析にとどまり、解決策の具体化が難しいケースも見られた。今後はデータの取捨選択や分析の視点を強化する指導を行い、フィールドワークや地域の専門家との連携を深めることで、より実践的な探究活動へと発展させることが求められる。